

Rama vs Krishna

ラーマとクリシュナ

講義 ムニンドラ パンダ 師
翻訳 宮石詠子

(この記事は2009年ラタヤートラーの定期刊行として出版されたものです。)

2007年のジャンマシュタミー(クリシュナの誕生日)のサットサングにおいて、ラーマとクリシュナに関して長い議論を交わしたことがありました。大変興味深いトピックでしたので、ここに紹介させていただきます。

インドにはラーマとクリシュナという二人の人物がいます。この二人は私たちの人格における正反対の顔を象徴し、同じ神が二つの化身をとってこの世に生まれました。そのため、ラーマとクリシュナの性格は180度違っています。これは非常に関心を引き起こす内容です。

ラーマとクリシュナは私たちの外側の性格と内側の性格という正反対の性格を表わしています。例えば、私たちが満月を見るとき、月のもう一方の側は暗闇となるでしょう。私たちが新月を見るときには、月のもう一方の側はまぶしく輝いているでしょう。私たちが半月を見るとき、もう一方の側の月は全く反対に見えているでしょう。

では、二人の相違点を以下に挙げてみましょう。

- ・ラーマには一人の母親(カウシャリヤ)と一人の父親(ダシャラタ)がいる ⇨ クリシュナには二人の母親(実の母デーヴァキーと育ての母ヤショダ)と二人の父親(実の父ヴァステーヴァと育ての父ナンダ)がいる
- ・ラーマはナヴァミティティ、太陰暦の9日目に生まれた
この9という数字はPurna(フル)、満たされた数字、ブラフマン、完全な数字を意味する
- ・クリシュナはアシュタミティティ、太陰暦の8日目に生まれた
ここでの8という数字は、9と比較すると不完全な数字、Maya(マヤ)を意味する
〈ギターでは8つのプラクリティ、Prakriti Ashtadha(プラクリティ アシュタダ)はマヤを表している〉
そのため、クリシュナの誕生日は8日目のアシュタミだが、翌日の9日目、ナヴァミにお祝いをする ---
幸福は悟り(数字の9)とともに訪れるものであり、物質(数字の8)とともにいる時には訪れないことを意味する
- ・ラーマは春に誕生した ⇨ クリシュナは秋に誕生した
- ・ラーマはシュクラパクシャ(白月)に生まれた ⇨ クリシュナはクリシュナパクシャ(黒月)に生まれた
- ・ラーマはスーリヤヴァンシャ(太陽の王家)に降誕した ⇨ クリシュナはチャンドラヴァンシャ(月の王家)に降誕した
- ・ラーマは宮殿にて産声を上げた ⇨ クリシュナは牢獄にて産声を上げた
- ・ラーマは真昼に出生した ⇨ クリシュナは真夜中に出生した
- ・ラーマの妻は一人である ⇨ クリシュナの妻は16,108人である
- ・ラーマは両親と12年を過ごしたあと別れた ⇨ クリシュナは最初の12年を実の両親と離れて過ごした
- ・ラーマはいつもまっすぐ立っている ⇨ クリシュナはいつも3箇所曲がった姿勢(トリバンギ・スタイル)で立っている
- ・ラーマの人生では、他の人によって奇跡が見られない ⇨ クリシュナは常に他の人からもよく奇跡が見ることができる
- ・ラーマは盗んだことがない ⇨ クリシュナは盗みのリーラ(遊戯)をすることでよく知られている
- ・ラーマは最も従順な息子である ⇨ クリシュナは親の命令を聞かずに自分で決断する息子である

〈物語例〉クリシュナがマトゥーラに来たとき、父親に誰とも喧嘩してはならないと言われたにも拘わらず、彼は自分に洋服を与えなかった洗濯屋を最初に殺してしまった

《カルマ論から読み取る意味》この洗濯屋は、過去生、ラーマの時代において、自分の妻が親戚の家で一晩外泊して戻らなかったため、妻の貞節を疑ったことがあった。この洗濯屋によって、シータがラーヴァナに強奪されてランカーに監禁されていた間の貞節は疑わしいと非難されていることを知ったラーマは、シータ

との別離を決意せざるを得なかった。ラーマは法と徳を重んじるMaryadā Purushottama（マリアダ・プルシュッタマ）であったため、ただ一人の非難をも受け入れたのである。ラーマの生まれ変わりであるクリシュナは別離の原因をもたらしたこの洗濯屋を直ちに殺してしまった。

《哲学的意味》衣服をきれいにするという洗濯屋の職業は、外見をよりよく見せたいというエゴを助長するものでもある。悪魔カムサ（エゴ）の擁護者となっている洗濯屋をクリシュナはまず殺した。私たちのエゴを滅するためには、エゴをサポートして力を与えるものからまず滅ぼさなくてはならない。

- ・ラーマはシェーシャナーガの生まれ変わりであるラクシュマナよりも年長である ⇨ クリシュナはシェーシャナーガの生まれ変わりであるバララーマよりも年少である
- ・ラーマが生まれたときは晴天だった ⇨ クリシュナが生まれたときは雨が降っていた
- ・ラーマは彼の妻シータといつも一緒に崇拝されている ⇨ クリシュナは彼の妻と一緒に崇拝されることはない
- ・ラーマの家系は息子によって引き継がれた ⇨ クリシュナの家系は最後に滅亡してしまった
- ・ラーマの子供たちは森で生まれた ⇨ クリシュナの子供たちは宮殿で生まれた
- ・ラーマの妻は先に彼の元を去った ⇨ クリシュナは彼の妻の元を先に去った
- ・ラーマは平安を与える --- Aramayati Iti（アラマヤティ イティ） ⇨ クリシュナは人を魅了する --- Akarshayati Iti（アカルシャヤティ イティ）
- ・ラーマは王でありながらも、知識の追求と瞑想のために森で聖者たちと過ごすことを好んだ ⇨ クリシュナは王ではないが、戦闘や人々を助けるなどして豪華な人生を過ごした
- ・ラーマは彼の父と聖者の許しを得てシータと結婚した ⇨ クリシュナは妻のルクミニを強奪した
- ・ラーマは長子だった ⇨ クリシュナは末っ子だった
- ・ラーマはウッタラヤナ（太陽の北回帰）に生まれた ⇨ クリシュナはダクシナヤナ（太陽の南回帰）に生まれた

では、二人の共通点は何でしょうか？

- ・ラーマもクリシュナも最初に殺したのは女性だった
【理由】彼女たちは悪魔の母親であった。悪魔の母親が殺されたなら、悪魔たちはもう生まれてこないため。
【背景にある哲学的意味】最初に原因の体（カーラナシャリーラ）をなくすなら、私たちのすべての欲望も期待も消失する。
- ・二人の名前の後ろにはどちらもチャンドラ（月）がつけられている。（ラーマチャンドラとクリシュナチャンドラ）
【理由】クリシュナは月の王家に生まれたため、名前にチャンドラがついている。しかしラーマは太陽の王家に生まれ、誕生した時間も真昼であったため、チャンドラ（月）は自分がラーマの人生に一切関わらないことに不満であった。ラーマとの同一化を望んだチャンドラは、彼の名前の後ろにつけられた。

さて、クリシュナとラーマは私たちの人生における2つの正反対の性格であることがわかりました。このクリシュナとラーマは私たちの中に存在しています。私たちが人に見せるものと私たちの内側にあるものは違うものです。それらはまさに対極にあります。

私たちが考えていることと行動していることがどのように正反対であるかについては、瞑想することによって理解できるでしょう。

月と同じように、人はいつも自分の明るい側だけを見せようとします。けれども内側の私たちは違っていません。このように、ラーマとクリシュナは私たちの内側の性格と外側の性格の2面性を表しているのです。この主題については今後、ラーマは私たちの智識（智慧）、クリシュナは意識であり、それらが私たちのアートの両翼である事を、さらに詳しく学んでいきたいと思えます。

<2007年ジャンマシュタミーのギター勉強会より>